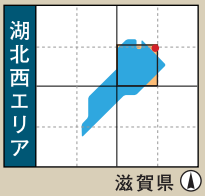
史跡
県指定

松尾宮山古墳群（まつおみやまこふんぐん）

高月町松尾　平成11年3月31日指定



松尾宮山古墳群は、古保利古墳群や姫塚古墳、横山神社古墳など県下でも有数の古墳の集中地帯に位置します。本来は3基以上から構成されていたと思われますが、現在確認できるのは尾根斜面にある2基のみです。現存する県内の終末期古墳の中では、全体像を把握できる、唯一の古墳群です。

当時のできごと	
538年	仏教伝来
593年	聖徳太子が摂政となる
645年	大化改新

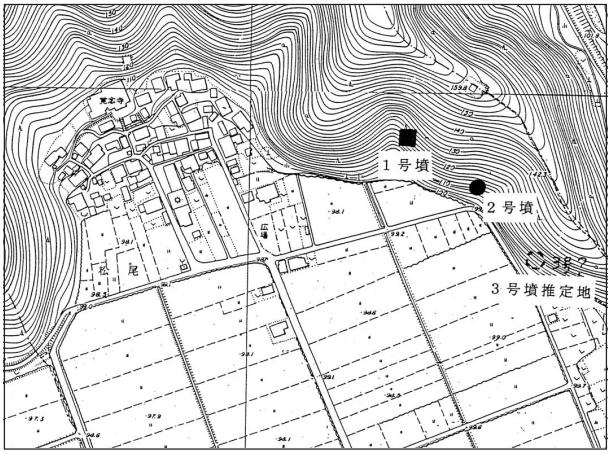
松尾宮山古墳群について

松尾宮山古墳群の2基の古墳は、いずれも明治時代に、石材確保のため破壊されていますが、当時の様子を詳細に記録した文書が県に残されているため、地元に残されている遺物との照合や、壊された古墳と現在の古墳との照合が可能です。

また、地元に保管されている遺物から、6世紀後半に造営された別の古墳が、100m程離れた地点にあった可能性があります。これと2号墳、1号墳の築造時期を合わせて考えると、古墳群は6世紀後半から7世紀中葉にかけて、3世代にわたって造営されたと考えられ、県内の終末期古墳の様子を知る上で貴重な遺跡です。



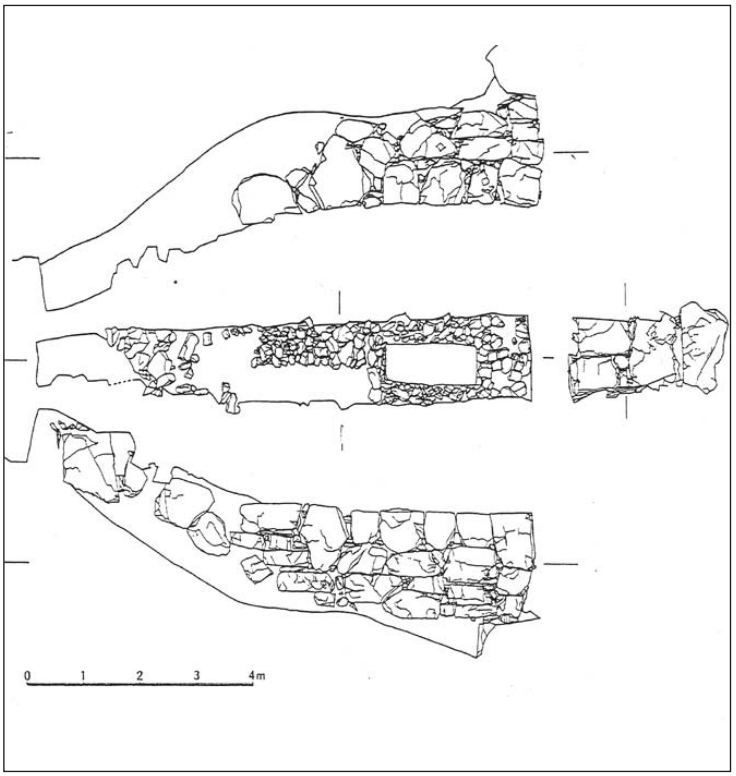
松尾宮山古墳群遠景



古墳分布図

1号墳

明治期に出土した遺物から、1号墳は7世紀中葉頃に築造されたと考えられます。急な尾根斜面の中腹に立地し、2段の外護列石があり、1段目の列石で17×13m、2段目の列石の前辺14mの規模の方墳です。内部主体は天井石と開口部が一部欠落していますが、無袖式（むそでしき）横穴式石室が比較的良好に残っています。石室内部には凝灰岩製刳貫式（ぎょうかいがんせいくりぬきしき）石棺の他に木棺1基、蔵骨器（ぞうこつき）と考えられる土師器壺、棺台、鉄釘などが確認されています。



1号墳実測図

2号墳

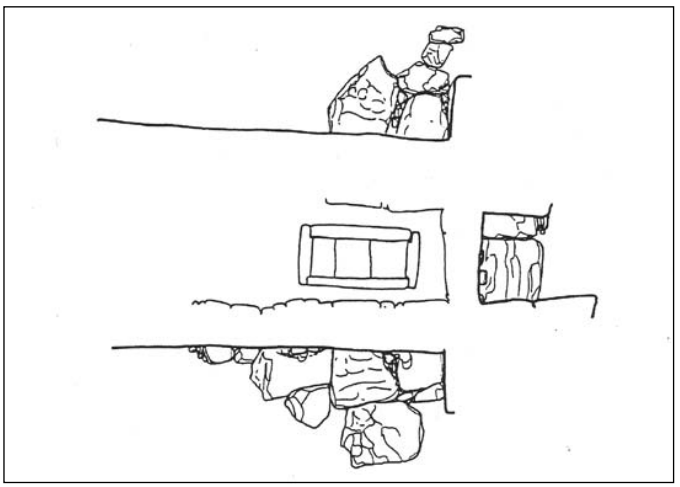
2号墳は、1号墳から40m程下った地点の尾根斜面裾部に立地し、7世紀前半に築造されたと推定されています。明治期に大部分の石材の抜き取りが行われていて、墳形や規模を確定するのは困難な状態で、内部主体についても破壊を受けていますが、1号墳とほぼ同じ幅の横穴式石室です。埋葬主体は、凝灰岩製組合式家形石棺1基の底部が遺存していました。蓋や側石などの一部は回収保管されています。



2号墳の現状



1号墳凝灰岩製刳貫式家形石棺



2号墳実測図

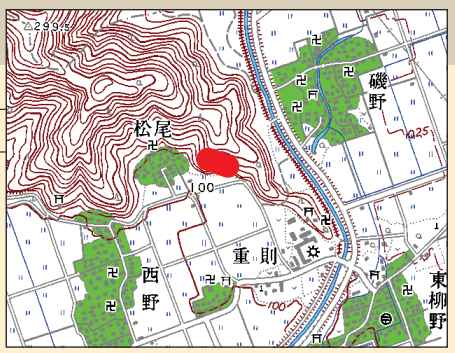
関連する文化財

大森古墳（高月町）	国内最古級の前方後方墳。全長約63m
古保利古墳群（高月町）	学習シートNo.037
物部遺跡（高月町）	古墳時代を中心とした、玉製品を作り続けていた特殊な集落
高月南遺跡（高月町）	弥生時代から古墳時代にかけての湖北地域最大規模の集落遺跡

もっと深く知りたい

高月町教育委員会	☎0749-85-3111	伊香郡高月町渡岸寺160
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678

松尾宮山古墳群へのアクセス　JR北陸本線　木之本駅下車
北陸自動車道　木之本インター



【参考文献】〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月